

2019 年度（平成 31・令和元年度）事業報告書
(2019 年(平成 31 年) 4 月 1 日～2020 年(令和 2 年) 3 月 31 日)

特定非営利活動法人こまちぷらす

I 事業の活動報告

法人運営 7 年目となる 2019 年度(平成 31・令和元年度)は、6 月に認定 NPO 法人の認証を取得するなど基盤強化の一年となった。具体的には、次の 5 つのことに力点を置き事業を推進してきた。1 点目は、こまちカフェの場を「対話できる場」「参画できる場」「埋もれている社会の声を可視化する場」として進化させた。具体的には、場そのものが驚きと感動のある場となるよう様々な新作メニューの開発を国連 WFP やこま農園と実施したり、haco+作家（手作り雑貨をつくる作家）やイベントスペースの契約者の方々とコミュニケーションをとりながら参加や活躍の場を多数つくった。多くのこまちパートナーの方が野菜販売やイベントや日々の運営を支えてくださり、障害・ダブルケア・不登校等のテーマで話せる場も地域の施設やネットワークと連携をとりながら実施ができた。2 点目として、カフェにおけるコーディネーター的人材の価値を世に広めるよう活動を進めた。2016～2018 年度につながりデザイン事業部で実施してきた『『まちの担い手』がいつの間にかうまれるカフェ』の研究実践プロジェクトをベースに、トヨタ財団の助成を受けながら 3 つの居場所への伴走型研修やカフェ内にて連続講座を実施した。3 点目に、ウェルカムベビープロジェクトにおいては、多くの市民が出産祝いの箱詰めを体験したり、学生から高齢者まで幅広い年齢層の人が背守り縫いに参加したり、数多くの接点を設計し、まち全体で子育てを応援する基盤づくりに力を入れた。子育てしやすい社会のインフラとなるようなイノベーションを企業連携で生み出せるよう 3 つのプロジェクトコンセプトをつくることにも力を注いだ。4 点目に、部門横断で、子育て当事者の子育て情報収集力向上に向けた取り組みを実施した。特に「とつかの子育て応援ルームとことこ」の情報スペースにおいて、情報提供以上に子育て当事者の「情報収集をする力」を高めるための工夫を凝らした。これらの 4 つのことを実践するために、組織面では、「財政基盤強化」「広報」「人材育成」の 3 つに力を入れた。具体的には分野横断の「広報部隊」「法人営業部隊」が活動を行ったこと、研修・面談・ミーティングなどを通じた人材育成の強化を行ったことなどである。2020 年 2 月末より、新型コロナウイルス感染症対策のため、状況の変化に応じて飲食の提供を削減・テイクアウト商品を拡充したり、可能な限りの在宅勤務を推進したりするほか、危機的状況を乗り切れるよう様々な手段を講じた。認定 NPO 法人化のタイミングや年度末の新型コロナによる自粛を受けた時期など、多くの方から寄付で支えていただいた。

<事業内容>

I 子育て情報の提供

1. 地域子育てカレンダー事業

- ・内容：【概要】地域の子育て情報を、地域子育て支援拠点との連携により収集しネット上に毎月 100～200 件ほどデータベース化しネット検索できるよう掲載。地域別、テーマ別、キーワード毎に検索ができるようになっている。自宅からなかなか出られない出産直後や転入など、地域情報にたどりつき辛い子育て当事者に向けて、地域の施設が発行しているチラシ情報をネット上で検索できる状態にすることで、孤立の解消につなげることが狙い。拠点運営法人より受託、実施。

【今年度の成果】

5 名のこまちパートナーの方にチラシを元に入力をいただき、最終チェックをした上でチラシデータを掲載して公開してきた。今年度は、大幅な入力担当者の入れ替えがあったものの、スムーズな引継ぎを行うことができ、さらに効率の良い入力が可能になった。戸塚区子育て支援拠点ととの芽

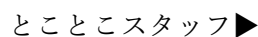
通年

て情報発信及び託児機能をもつ施設

【今年度の成果】

来所者自身の情報を受け取る力を向上していただくべく、掲示にも工夫を凝らした。例えば、「産前産後の情報」掲示物の内容を検討の上、大きく見やすくリニューアルした。また、情報ラック2つを室外に常設したことで、休館時でも幅広い層に情報を見てもらえることにつながった。空いたスペースを活用し、「ワーキングマザーのタイムスケジュール」を掲示し、復職後の生活の流れをイメージできるよう工夫した。

日時：通年
場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 16-17
実施者人員：5 名
受益対象者：区内外の親子中心に、のべ 15,080 名
支出額：1,702,784 円



II. 子育てをしている人、子ども、地域の人が思いを言語化し、つながりをサポートする場づくり

- ・ 内容：【概要】日祝日を除く毎日（月曜日～土曜日）戸塚駅から徒歩7分のところで「こまちカフェ」という居場所を運営。飲食の提供、雑貨の販売、イベントを通して子育て中の母親のリフレッシュや外出動機の創出、仲間づくりのきっかけづくり、気持ちを言語化できる機会づくり、新たな情報や視点との出会いの場をつくっている。当事者や支援者・企業・行政等様々な主体の人の「ニーズ」や「できること」が集まり、コーディネーションをしながら活気のある場をつくっている。この部門では主に、飲食の提供を通した豊かな居場所づくりをしている。

【今年度の成果】

日々安定して居場所を運営ができるよう注力した。中でも飲食においては、感動のあるメニューが子育て当事者にとってのリフレッシュや外出動機にもつながると考え、新作メニューやスイーツの開発を行った。また、新型コロナウイルス感染症対策で始まったお弁当販売は、今まで来店したことなかった層へのアプローチとなった。

SDG s 国連 WFP の「世界食料デーキャンペーン 2019」に参加し、野菜の仕入れ先である「こま農園」で廃棄の可能性が高い野菜のうち、トマト・かぼちゃ・冬瓜を使ったスムージーや紅茶を「Coma×Koma ドリンク」として開発・販売、売上の一部を寄付した。キャンペーンに参加するのみならず、子どもたちの未来の為に小さなカフェからできることをスタッフ一人一人が考え、環境に配慮した取り組みを推進した。具体的には、紙のお弁当パックの使用、エコバッグや牛乳瓶の貸し出しなどが挙げられる。また、キャッシュレス決済を導入するほか、ランチタイムの予約受付方法の電子化を推進するなど、来店のハードルを下げる工夫を行った。

子育て当事者に情報が確実に届くよう、現役の子育て当事者のこまちパートナーとの意見交換を行い、SNS 配信等の新たなツールを開拓した。また、地域の「居場所」として気軽に立ち寄れるよう「街のとまり木」の登録や、学生ボランティアやインターンの受け入れも行うなど、地域のゆるやかなつながりを紡いでいくカフェとなるように努めた。

- ・ 日時：通年
- ・ 場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・ 従事者人員：40 名
- ・ 受益対象者：区内外の母子中心に、のべ 8,116 名程度
- ・ 支出額：10,784,011 円



弁当の販売



coma×koma スムージー(トマト)

III. 社会から孤立しがちな当事者・支援する人の学びあい事業

1. 「でこぼこの会」（発達障がいをもつこどもの親を対象に情報発信・イベント実施）

- ・内容：【概要】毎月1回、お子さんの発達に不安を持つ親、支援者、当事者の方が集まり、お話会と依頼した講師による勉強会を交互に開催。

【今年度の成果】

2019年度は新しい講座として理学療法士の先生をお招きして「親子でカラダ遊び」を開催した。前年度好評だった「先輩ママに聞く会」や「勉強会」なども引き続き開催。勉強会だけでなく、お話会も満席になることが多かった。

外部団体等からの講師依頼があり、障がいのある子どもを持つ親の目線での発達障害のある子どもとの接し方やその保護者との関わり方について話をする機会も得た。

区内のネットワークの会「ポンテ」にも月一回参加し、情報交換に努めている。

- ・日時：4月12日、5月10日、6月7日、7月12日、8月2日、9月6日、10月4日、11月1日、12月6日、1月10日、2月7日、3月6日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：5名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ125名程度
- ・支出額：93,092円

2. ケアラーズカフェ「えんがわ」

- ・内容：【概要】子育てと介護といったダブルケアの方を対象に、思いを話し合う機会や、介護や認知症等について理解をすすめる機会を開催。

【今年度の成果】

子育て世代が直面する親の介護について、必要な情報に出会えることや自身の思いを話し合える場とすること、「子育ても介護も一人で抱えない」「介護者が自分自身を大切にする」ことを目指し活動した。具体的な実施内容としては、「旅のことばカード」や新聞記事を使用したおしゃべり会、介護施設の見学会、「看取り」についてのお話会、認知症サポーター養成講座等を、ボランティアや認知症キャラバンメイトの方のご協力を得ながら実施。特に介護施設の見学会については、夏休み期間に子どもと一緒に参加できる内容とし、子ども世代と親世代が共に考える場となった。

- ・日時：4月19日、5月24日、6月21日、7月22日、8月6日、9月30日、10月11日、11月15日、12月26日 1月20日 2月21日（計10回開催）
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：2名
- ・受益対象者：子育て中の方、介護中の方、支援者等、のべ51名
- ・支出額：13,382円



イベントの様子▶

3. 「～不登校・ひきこもりの親ができること～ほっとひと息金曜日」

(不登校・ひきこもり学齢期児童の家族向け事業)

- ・内容：【概要】月1回金曜日午前または土曜日午後に、不登校ひきこもり児童・生徒（学齢期）の家族の方がお互いの今の心情を安心して話すことができる場を提供。

【今年度の成果】

この事業の立ち上げ2年目となり少しずつ場を知っていただくことができた。不登校・ひきこもりの子を育てた経験のある方の話を聞いたり、不登校経験をした当事者の方の話を聞いたりすることで、気づきや安心感を得、子どもを取り巻く大人が自信と元気を取り戻すことができるよう努めた。こまちカフェとして「街のとまり木」の活動に参加し不登校の子どもたちの外出機会、学びの機会づくりを始めた。戸塚区ふれあい助成金の助成を受け、地域との連携を深めながら実施。こまちパートナーや不登校経験の子を持つ先輩お母さんたちがボランティアとして活動を支えてくださった。ポンテという区内のネットワークの会にも月一回参加し情報交換をしている。

- ・日時：4月26日、5月31日、6月22日、7月26日、8月30日、9月21日、10月25日、11月22日、12月21日、1月31日、2月28日、3月21日
- ・従事者人員：2名
- ・受益対象者：不登校児童の親、支援者など、のべ60名
- ・支出額：39,427円

IV. 社会とつながりたい人が社会で活躍できる場・貢献の場を見出すためのチャレンジ事業

1. 特技を活かし、地域に貢献を考える子育て中の母親に対するサポート事業

- ・内容：【概要】こまちカフェにて、イベントスペース・カフェスペースの貸出を通して起業支援や情報発信支援を実施。

【今年度の成果】

2019年度はのべ39名の方にレンタルスペースをご契約いただき、こまちカフェの場を使って情報発信や地域の子育て中の親子が仲間を作る機会を共につくってきた。ベビーマッサージやヨガなど親子で体を動かす講座、家計セミナーや育休復帰講座、食や手作りなど生活に密接したイベント、おもちゃひろばや季節に合わせた遊び、さまざまな視点でのおしゃべり会など、子育て中の親子が興味関心をもつ多種多様な講座を展開するとともに、主催者の活動の場を広げることができた。

このスペース契約者の交流会を年度中に2回行い、それぞれのイベント開催についての思い、工夫や悩みを共有し合った。そこで契約者同士がつながり合い、コラボレーション企画の新たなイベントも生まれた。

毎月1000部発行しているイベントチラシについては、配架先と部数の見直しを行い、パートナー(ボランティアメンバー)の協力も得て、求められている情報が必要な方に届くよう配慮した。

新型コロナウイルス対策においては、可能な限りの感染予防を講じるとともに、状況にあわせたイベントの縮小・延期などの判断を速やかに行い、主催者と参加者の安全を図った。さらに、在宅でオンライン参加できるイベントの企画・実施など新たなイベント開催の形態を契約者と共に模索した。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：4名
- ・受益対象者：起業、教室開催を考えている方及び一般市民等、のべ2,700名程度

・支出額：998,615 円



イベント契約者様の交流会

2. 子育て中の母が特技を活かし生きがい及び仲間づくりのために作成した飲食物・手づくり品の販売

- ・内容：【概要】こまちカフェ内スペースにて、子育て中の方を中心とした市民がつくった手づくり雑貨を販売。地域の方の外出動機の創出につながり、また、子育て中の方々の得意が活きる場づくりにもつながっている。0 か 1 ではない働き方（自宅にしながら働ける一つのスタイル）の提案の場にもなっている。

【今年度の成果】

通年のこまちカフェでの商品の販売のほかに、カフェ 1 階の駐輪場にて外販売も行い多くの地域の方やまだカフェに足を運んだことがない子育て層との接点を増やした。特に新型コロナウイルスの影響でマスク不足が深刻な年度末は、作家の皆さんがマスクをたくさんつくってくださり、また、多くの方が買いに来てくださったことにより、3 月は過去最高の売上となった。12 月には「クリスマスの贈り物展」を開催、今まで来店したことのない層への来店のきっかけとなるほか、コントラバス奏者のパートナーさんによるミニコンサートや、お菓子作りの得意なスタッフによるスイーツ販売も同時に企画したことで、作家・スタッフ・パートナーの交流の場ともなった。

また、様々な理由から外に出ることが困難な方へ向けて、Instagram でのライブ配信や、YouTube での「haco+いっぱいプロジェクト」と題した動画の配信も試み、より多くの層に届くような情報発信を工夫した。

更に、有限会社 heart.com からの依頼で 2020 年度に出産予定の戸塚区のご家庭へ送るウェルカムベビープロジェクトの出産祝いのプレゼント「ガーゼはんかち」作りに有志の haco+作家が複数参加した。最後に、課題となっていた広報の頻度 UP や、遠方作家希望者へ迅速に対応に対応すべく、スタッフを一名増やし作家のフォロー体制を強化した。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3 名
- ・受益対象者：手づくり小物を地域でつくる方及び一般市民等、のべ 1500 名程度
- ・支出額：604,610 円



ウェルカムベビープロジェクト「出産祝い」のはんかち

外販売の様子

V. 地域の多様な主体が互いに連携・協働し、コミュニティの活性化を推進するためのコーディネート事業

1. ウェルカムベビープロジェクト

- ・内容：【概要】「子どもの誕生・子育てを歓迎する文化の醸成」を願い、出産祝いを地域の人々や企業商店とつくり、届ける事業を実施。事務局をヤマト運輸株式会社神奈川主管支店とともに務める。横浜市こども青少年局後援事業。出産祝いは戸塚区及び鶴見区在住の赤ちゃんが生まれた世帯のうち、申し込みがある世帯へ無料で、ヤマト運輸株式会社が毎月およそ 70 件（戸塚区 50 件程、鶴見区 20 件程）届けている。プレゼントは選考会にて 4 人の選考委員により認定されたものが入る。このプロジェクトの資金はすべて民間財源（協賛金や寄付、自主事業収入）でまかなわれており、行政と連携し実施している。住民や企業商店等様々な人が子育てに関わるきっかけとなるよう設計し、その関わりと連携により新たな社会インフラ（子育てが豊かになっていくようなコト・モノ・サービス・制度）を生み出していくことも目指している。一例として、このプロジェクトからおむつ自動販売機が開発され、産院とのプレママ・プレパパ教室の開催が生まれている。

【2019 年度成果】

事業が 4 年目を迎え、活動が多岐にわたるようになってきたため、事業を「出産祝い」「産前」「産後」「創発」の 4 部門に整理した。

○出産祝い部門

2019 年度の出産祝いは、戸塚区 489 個、鶴見区 143 個をお届けした。（2020 年 4 月 3 日現在、申し込み継続中につき 7 月まで発送継続予定）

まちの人からの出産祝いである「背守り」を縫う「背守り会」は、戸塚と鶴見で年約 30 回程度開催。「背守り会」以外にも自宅で縫ってくださる方、地元の高校生のボランティア参加、サービス付き高齢者向け住宅での背守り会開催により、プロジェクトへ多世代の関わりが増した。また、背守りを受け取った方が参加し、次に受け取る方へ縫う場面もあり、地域の中で「思い」の循環がみられた。

また、戸塚では出産祝いの箱詰めイベントを地域の商業施設にて年 8 回開催、買い物途中や商業施設に遊びに来たのべ 207 人が参加。鶴見では、ボランティア活動として、箱詰めと背守り縫いを高校で実施し、約 16 人が参加した。今年度も、企業・団体のみならず、地域の様々な世代の人々と一緒に出産祝いをつくり、送ることができた。

2020 年度の出産祝いについては、前年度より新たに 5 企業・団体の応募があり、選考の結果、全体で 14 社・団体からのプレゼントが決定した。

○産前部門

近隣の産院と協働でプレママ・プレパパ講座を継続実施し、3年目となる。年3回、土曜日に実施し、71名の参加があった。平日開催の産前講座へ参加が難しい方の参加、また、祖父母の参加需要があった。

○産後部門

戸塚区在住の0歳児親子を対象としたおしゃべり会を年8回開催、のべ31名が参加し、同じ年の子どもを育てる当事者同士の交流の場を運営した。また、地域の商業施設にて、妊婦、0～1歳児の親子を対象とした貸し切りスペース「こまちパーク」を年33回実施、のべ338名の参加者が来場。原則として当法人スタッフ2名が対応し、来場者どうしをつなげたり日々の生活や不安なことについて耳を傾けたりする中で、現在の子育て当事者のニーズをひろった。

○創発部門

当プロジェクトに関わる企業7社が3グループに分かれ、「子育て」「地域」をキーワードに新しい事業のコンセプトを1年にわたり検討し、事務局としてコーディネーションを行った。年度内に事業を実施するには至らなかったが、今後、実施に向かうために必要な要素を外部に相談しながら現在も進めている。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市を中心に、全国
- ・従事者人員：4名
- ・受益対象者：戸塚区・鶴見区で生まれた赤ちゃんのご家庭の方、700名程度
企業、一般市民などおよそのべ700名、計のべ1400名程度
- ・支出額：4,456,466円



出産祝い

2. つながりデザインプロジェクト

- ・内容：【概要】2016-18の3ヵ年かけて日本財団の助成を受けて取り組んだ、「カフェの場からまちの担い手が生まれる仕組みづくり」をもとに、2019年度からは他地域の他団体に伝えていく機会を「トヨタ財団市民参加促進プログラム」助成を受けて実施。こまちカフェにて全コーディネーターの育成を、トヨタ財団の助成プログラムとして集合研修と個別訪問を実施。
また、自主財源での事業として、こまちカフェにて全5回の講座の開催する他、神奈川県内外の他団体や自治体等から依頼を受けて講座やワークショップを担当。こまちカフェでの取り組みを継続しながら「自分らしい活躍」のできる居場所を様々な地域に増やす取り組みを実施。

【今年度の成果】

こまちカフェでの「おしゃべり会」等への参加や「パートナー登録」などの様々な機会を通して、それぞれが自分らしい生き方や「やってみたい」活動を考えられるよう、その仕掛けとなる工夫を「居場所づくりコーディネーター」が担当し運営した。2019年度は、17名がパートナー登録し、10名がぷらす

交流会、5 名が企画の会に参加。2019 年度は、戸塚区の子育てイベント「とことこフェスタ」にてこまちパートナーがイベントの催しの一部を担当し、企画、事前準備、当日運営を担当。「とつかママつながりラボ」としてフェスタ後も団体として活動することとなった。

また、こまちカフェ以外の地域や場の運営者や市民を対象とした「他地域への展開」にも力を入れ、神奈川県内、県外の様々な場所において本取り組みの紹介や講座等を行った他、初の試みとして全 5 回の「学びあい講座」をこまちカフェにて開催。講座での学びだけでなく、参加者どうしが今後も学びあえるネットワークも築かれつつある。

様々な立場の人が地域課題を知り自分のアクションを考えるとつかフューチャーセッションを年 2 回開催。介護をとおして地域づくりに取り組む「株式会社ぐるんとびー」やひきこもりの方々の居場所の取り組みをされている「特定非営利活動法人つながる会」より講師をお招きして、様々な人の「声」に触れ、社会や個人の暮らしの豊かさを考える機会となった。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：7 名
- ・受益対象者：乳幼児や学齢期の子どもを育てる親、地域の方、商店、企業、支援者等 のべ 500 名程度
- ・支出額：2,624,641 円



居場所づくり学びあい講座



とことこフェスタ



とつかフューチャーセッション

3. 戸塚宿ほのぼの商和会事務局

- ・内容：【概要】約 65 名の会員がいる戸塚の商店会の事務局をつとめる。その事務局機能をつとめながら、子育てに必要なまちのインフラを考え提案をしている。

【今年度の成果】

一年を通じて戸塚宿ほのぼの商和会事務局を運営。定例会を年 8 回開催、懇親会を年 5 回開催。会員向けの情報発信としてほのぼの便りを毎月 1 通作成し、定例会の議事録などの情報共有をした。また、部活動として、MAP 部、親睦部、ほのぼのフェスタ部、ユーチュー部、美化部で活動をし、商店会活動に参加するきっかけを作った。商店会のマップ作りに際しては、キッズライターによる商店の取材やヒアリングをする会、アンケートの実施をし、実際に手に取ってみたいくなるようなマップとなるよう工夫し、完成した。新たな試みとしては、秋にほのぼのフェスタを開催した。スリッパ卓球選手権やバリア探検、web セミナー、ほのぼのマルシェで大いに賑わった。その他、夏まつり、戸塚ふれあい区民まつり、区民市の出店で地域との交流を図るほか、旭町通商店会と協力し、防犯カメラの設置をした。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、「本音を聞く会」を開催し、今困っていること必要としていることについて話し合い、商店会として何ができるか検討した。まずは消毒液を商店会で購入し不足してお困りの店舗にお譲りした。店舗移転や閉店などで会員数が 7 店舗減少したが、新規会員が 5 店

舗増加し、3月現在の会員数は66店舗。4月に5店舗新入会予定。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：68名
- ・支出額：925,123円



ほのぼのフェスタ 2019の様子



区商連プロモーションビデオ撮影の際の様子

4. 「おしゃべり会」のデータベース化

- ・内容：【概要】カフェやカフェの外で行う「おしゃべり会」（対話の場）で語られる言葉を、本人の了承を得た上でデータベース化し、自分の語りや他者との対話を通じた気づきと変容を可視化する。企業や地域の施設・団体との連携によって、働いている人へのアプローチをし、ワーキングマザーが働きやすくなるような施策にもつなげる。

【今年度の成果】

「対話の場」を広げるためのツール開発及びファシリテーター養成事業」として、「対話の場」が様々な居場所で設けられるよう、これまで作成してきた「葉っぱ」の質を向上しながら量産と共有ができるようWAM助成を申請した。次年度、「対話の場」を実施できるようファシリテーターの養成を実施し、効果検証の上、「育児環境を支える対話の仕組み」の制度化を目指すための下準備を行った。

- ・従事者人員：5名
- ・支出額：1,570円

5. 横浜市内の「コミュニティカフェ」の情報共有事業（横浜コミュニティカフェネットワーク世話人）

- ・内容：【概要】横浜市内のコミュニティカフェの情報共有のために活動をしている横浜コミュニティカフェネットワークの世話人の一人として代表が活動。

【今年度の成果】

コミュニティカフェネットワークとしては視察訪問等を実施。新型コロナ発生直後から情報共有や消毒用アルコールの共有、アンケートを通して状況を確認、発信。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市
- ・従事者人員：1名
- ・受益対象者：主に横浜市内のコミュニティカフェ実践者及び関心がある方等、50名程度

- ・支出額：13,108 円

VI. 孤立しない社会をつくるためのまちづくり・啓発・提言事業

講演やコラム発信等、起業への働きかけを実施

- ・内容：【概要】講演や研修、調査協力、機関誌寄稿等を通した提言啓発を実施。
【今年度の成果】育休取得者向け企業内研修を複数拠点で行ったほか、行政関係者、中間支援、市民団体の方、企業、学生等向けにこまちぶらすの活動やカフェでの実践、SDGs の取り組み等について話し、ビジョンの普及啓発に努めた。
- ・日時：通年 計 18 回
 - ・2019 さがみリーダーオリエンテーション講座①（4/24 於:海老名市）
 - ・にっぽん子育て応援団結成 10 周年記念フォーラム
「もっと、みんなで なんとかしたい！ にっぽんの子ども・子育て」（5/19 於:津田塾大）
 - ・三鷹「まち活」塾 第 5 回「まちとのかかわり方を考える〔2〕」（6/29 於:三鷹）
 - ・参加型福祉研究センター2019 年度コミオプ・セッション（10/1 於:横浜）
 - ・「子育てにおける孤立と居場所について」の研究成果発表会（10/10 於:早稲田大）
 - ・よこはま NPO 労務塾（12/17 於:横浜市）など。
この他、「超福祉の学校 2019～障害の有無をこえて共に学び、つくる共生社会フォーラム～」(主催：文部科学省)にて、「みんなで学び、つくる共生社会ワークショップー多様な当事者・支援者が、日頃の悩みや課題を共有し、解決に向けたアイデアを出し合うー」のファシリテーションを実施。これまで当法人で作ってきた対話のツールを使いながら、多様な当事者が話し合う場をつくった。
- ・場所：神奈川県、東京都等
- ・従事者人員：6 名
- ・受益対象者：行政、団体や居場所運営者、育休中社員、子育て中の親、学生等およそ 850 名程度
- ・支出額：415,593 円